

<熊毛地区社会教育主要事業実績>

月	日	曜	事業名	会場	出席者数
5	11	土	地区子ども会指導者・育成者研修会 地区リーダー研修会・安全教育講習会	屋久島町役場	29人 25人
5	18	土	地区子ども会指導者・育成者研修会 地区子ども会安全教育研修会	南種子町自然の家	20人 21人
6	5	水	地区人権教育ブロック別指導者研修会 地区社会教育指導者研修会（P T A・女性団体・高齢者団体）、地区社会教育委員等研修会及び自治公民館経営研究会	西之表市民会館	129人 48人
6	22	土	地区社会教育指導者研修会（青年団体）～23日	あっぱ～らんど	27人
7	17	水	地区文化財保護審議会委員等研修会	中種子町立中央公民館	30人
8	28	水	地区子ども会大会・創作活動大会 ～29日 ※台風接近のため中止	屋久島環境文化研修センター	45人 (予定)
11	30	土	地区子ども会ジュニア・リーダー養成研修	屋久島町役場	28人
12	7	土	県P T A活動研究委嘱公開（岳南中学校）	屋久島町立岳南中学校	148人

熊毛地区社会教育振興会では、地域・家庭・学校・行政・関係機関等の連携が更に深まり、熊毛地区の社会教育がますます充実・発展することを願って、リーフレット「熊毛の社会教育」を作成しています。ぜひ御一読いただき、本地区の社会教育の更なる充実・発展に御理解と御協力をお願いします。

一・二ページには、地区主要行事を、三～六ページには、一市三町の特色ある事業等を掲載しています。

熊毛の社会教育

令和七年 二月 発行
熊毛地区社会教育振興会

子ども会指導者・育成者研修会 子ども会安全教育研修会 （リーダー研修会・安全教育講習会）

屋久島会場：令和六年五月十一日（土）屋久島町役場（五十四人）
種子島会場：令和六年五月十八日（土）南種子町自然の家（四十一人）

多くの子ども会関係者が出席し、子ども会活動に子供たちが主体的に取り組むための方法や安全に活動するためのKYTトレーニング等について、交流を楽しみながら学ぶことができた。出席者からは、「たくさんの方々が来てくれてうれしかった」「研修で学んだことを単位子ども会で生かしたい」等の感想が出されました。



屋久島会場【研修】
「やってみよう！KYTトレーニング」



種子島会場【実技】
「レクリエーション」

人権教育ブロック別指導者研修会 社会教育指導者研修会（P T A・女性団体・高齢者団体） 社会教育委員等研修会及び自治公民館経営研究会

令和六年 六月 五日（水）
西之表市民会館（計百二十九人）

人権教育ブロック別指導者研修会では、西之表市立安城小学校長の吉満ふくみ氏に「認め合い、支え合い、高め合う人権尊重のまちづくり」をテーマに講演をしていただき、人権を自分事

社会教育指導者研修会（青年団体）

令和六年六月二十二日（土）～二十三日（日）
あっぱ～らんど（二十七人）

今回は、県青年団協議会からも二人の出席がありました。小田原朋美会長に「レッツエンジョイ鹿児島♪あなたのやりたいがみんなの楽しいに」と題し、講演をしていただき、県青年団協議会の方針や取組内容を知ることができました。各青年団の活動報告やグループ討議、情報交換も行われ、今後の青年団活動につながる熱い交流となりました。

として捉え、行動に移す大切さを学びました。午後の研修では、鹿児島市立中洲小学校長の牛堀隆弘氏に「社会教育の充実に向けて」と題し、取組例を交えながらこれからの社会教育の在り方について講義をしていただきました。最後に、出席者同士で事例発表・講演・講義の感想を出し合い、日頃の活動の成果や課題、解決策について協議しました。会場が一体となり、出席者の皆さんの笑顔があふれる一日研修となりました。



【事例発表】

「持続可能な公民館活動を目指して」
南種子町公民館連絡協議会 船川 継人 会長

あなたのやりたいが みんなの楽しいに！



【出席者の感想より】
小田原会長の「できないとあきらめるのではなく、できる方法を考えることが大切だ」という話がとても参考になった。
地区内で協力し合って、青年団主体の新しいイベントをしてみたい。
SNS等で周知活動を行い、魅力ある青年団にしていきたい。

文化財保護審議会委員等研修会

令和六年七月十七日（水）
中種子町立中央公民館（三十人）

県教育庁文化財課の阿比留士朗文化財主事に指導講話をしていただき、県教育振興基本計画に基づく文化財の保存・活用について研修を深めました。研究協議では、屋久島町文化財保護審議会の緒方麗委員に「まぼろしの民謡 まつばんだの復活」と題し、事例発表をしていただきました。出席者からは「先人の思いを忘れずにまつばんだを復活させ、普及活動に取り組む緒方さんの姿に感動した」「熊毛の文化財を次の世代にしっかりと伝えていきたい」と感想があり、文化財の保存・活用に対する思いが強まったようでした。閉会後の現地視察では、熱中症対策を施しながら、中種子町教育委員会社会教育課の皆さんに古市家住宅や坂井神社の大ソテツ等を案内していただき、充実した研修会となりました。



【坂井神社の大ソテツ】

子ども会ジュニア・リーダー養成研修

令和六年十一月三十日（土）
屋久島町役場（二十八人）

悪天候により種子島・屋久島間の高速船の運航が当日まで心配されましたが、無事に屋久島町に集合し、盛大に開催することができました。研修Ⅰ「レクリエーション」は、屋久島町高校生クラブ「ぼんだま」の皆さんが講師を務め、緊張をほぐしながら、参加者主体で交流を図ることができました。研修Ⅱ「KYTの実践」は、屋久島町子ども会育成連絡協議会の矢野憲一副

会長に講師をしていただきました。南海トラフ巨大地震を想定した内容で、津波の映像を観たり、「防災小説」を読んだりして、これまで以上に防災を自分事として捉える貴重な機会となりました。研修Ⅲでは、各団体の活動や課題について発表し、意見交換を行う中で、今後の活動に対する新たな目標を定めることができました。本研修で学んだことが各団体内で共有され、今後の活動が更に充実していくことや各団体間の交流が継続していくことを願っています。

【振り返り（感想発表）】



【出席者の感想より】
・人前で話をするのは緊張したが、みんなが楽しんでくれて嬉しかった。
・命を守るための行動について再認識した。防災について家族や友人ともしっかり話し合い、災害に備えた準備をしたい。
・他の団体と課題を共有し、解決に向けて協力したい。

県PTA活動研究委嘱公開

令和六年十二月七日（土）
屋久島町立岳南中学校（百四十八人）

屋久島町立岳南中学校PTAでは、「屋久島の自然と地域力を生かしたPTA活動」未来へ繋ぐ岳南「source」を研究主題に実践を積み重ねてきました。屋久島の自然を生かした岳南サイクリング（ふれあい屋久島自転車一周）や地域力を生かした子ども育成会活動等、家庭・地域・学校が連携した未来へつながる取組について研究発表していただきました。ウェルビーイングなPTA活動が今後も継続することを期待します。



【開会行事】

受賞おめでとうございます

令和六年度社会教育関係表彰 ※敬称略

◆優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる
文部科学大臣表彰
西之表市立住吉小学校

◆県優良青少年少女団体及び地域高校生クラブ等表彰
松峯子ども会（屋久島町）

◆県子ども会育成連絡協議会表彰
川迎（小）子ども会育成会（西之表市）
西海地区公民館青少年育成部（南種子町）

◆熊毛地区子ども会育成連絡協議会表彰
上別縄 成子（西之表市）
光 秋広（中種子町）
小山 岳富（南種子町）

◆熊毛地区社会教育関係優良団体及び個人表彰
西之表市民合唱団「コールわかさ」
南種子町ジュニア・リーダークラブ「コスモス」
神山小学校PTA「親ん学校」（屋久島町）
古澤 勝（西之表市）
田中 文代（中種子町）
矢野 憲一（屋久島町）

編集・発行

熊毛地区社会教育振興会事務局

住所 西之表市西之表七五九〇番地

熊毛教育事務所内

電話（〇九九七）二二一〇五三五

E-mail kuma-shido@pref.kogoshima.lg.jp

西之表市

まなびの輪

にしのおもて

「波濤を超え、全国どこでもたくましく生き抜くことのできる力を備えた人間育成」「郷土振興に情熱を燃やし、郷土興しの原動力たり得る人間育成」をスローガンとし、「ひとりだちの教育」を本市教育の基本理念としています。

ふるさとまなび隊

「ふるさとまなび隊」は市内の小学三年生から六年生を対象とし、様々な体験学習を通して、ふるさとの自然や文化などを学び、また異年齢で交流することで豊かな人間関係や規範意識、社会性を養うことを目的としています。

令和六年度は、例年人気の企画であるカヌー・いかだ体験や夜の鉄砲館で行われるナイトミュージアムをはじめ、年間八回の活動を計画しています。現在のところ、第六回まで活動を終えており、各活動に参加した子供たちからは、多くの「楽しかった」等の声を聞くことができました。

また、昨今、主に中学一年生期に多い不登校者数の増加(中一ギャップ)を受け、中一ギャップ解消を目的とした「六年生限定の宿泊体験」を再開しました。



カヌー体験の様子

は、種子島中学校に協力していただき、校長先生による講話、部活動見学を行いました。午後からは、立山校区にある川でダクマ(手長エビ)捕り体験と西京ダムでカヌー体験を行いました。途中日向灘地震が発生し、参加者の安全確保のため中断となりましたが、中学校進学に向けて充実した活動を行うことができました。

充実した図書館活動

図書館活動の充実と市民の読書意欲が向上することを目指し、様々な取組を実施しています。

夏休み期間中、市立図書館において、市内の小学三年生から六年生を対象とした「館長と学ぼう、自由研究の仕方講座」を開催しました。今回が初めての開催ではありましたが、「植物標本製作」「貝標本製作」「昆虫標本製作」の全三講座を通して、受講生たちが目を輝かせながら真剣に学ぶ姿が印象的でした。

今後、魅力ある図書館づくりを目指し、市立図書館と学校図書



講座の様子

館が連携して蔵書の整備・充実を図りながら、図書館におけるイベント企画等、読書活動の推進に向けた様々な取組を進めていきます。

家庭教育講演会

市教育委員会及び市PTA連絡協議会では、市内全体の家庭教育の充実を図るため、家庭教育の重要性や各発達段階に応じた家庭教育の在り方などについて学ぶための家庭教育講演会を行っています。各小・中学校で開催されている家庭教育学級の中央講座としての位置付けでもあります。

令和六年度は、「子どもにどう寄り添っていけばよいだろうか」「子どもの良さを大切にする家庭教育の実践を通して」をテーマに掲げ、講師の川添まり子氏(有限会社リアライズ代表)による講演「子どものやる気と未来を育む『言葉の力』」を、市内小・中学校、高等学校、幼稚園・保育園・こども園等の関係者が聴講しました。川添氏は、体と心のセルフコンディショニングのプラクティスや講演会等で活躍されており、三人の子育てと、中学校保健体育教師としての経験を生かし、子供たちに「たくましく生きる力」を身に付けさせる教育について、お話しただきました。やる気を引き出すポジティブな声掛けや、誉め言葉を意識して使うワークシヨップも含めた内容で、出席者からは、「すぐに子育てで実践していきたい」



講演会の様子

「もっと早く知れたかった」「子育てのヒントばかりだった」という前向きな感想が聞かれました。

今後、地域社会や学校、行政が力を合わせ、子育て家庭の「支え」となるよう、社会全体で支え合う家庭教育支援の取組を推進していきたいと考えています。

高齢者の学びを支える寿大学

昭和四十二年に開校した「寿大学」は、市内三地区にある高齢者学級の中央教室としての位置付けで、六十五歳以上の高齢者約百人が、各種学習や交流等を通して、生きがい・満ちた心豊かな人生を送るために、毎月一回の学習を楽しみに活動しています。

令和六年度は、高齢者の関心・要望の多い「認知症」「健康」「終活」「うそ電話詐欺」等をテーマにした講話を聴講し、学びを深めながら各クラブ活動(生花・書道・園芸・音楽・民謡・ダンス・体育)に取り組んでいます。十二月に開催した「寿大学学園祭」では、日頃の活動の成果を展示・舞台発表していただきました。学級生の皆さんの生き生きとした表情がとても印象的でした。これからも高齢者の豊かな学びを支えていきたいと思っています。



学園祭の様子

中種子町



風立

のまち
なかなたね

中種子チャレンジキッズ 「歴史を学ぼう」

中種子チャレンジキッズは、年間を通して多くの体験活動を行っています。十一月十六日には、「納官・増田校区の歴史を学ぼう」と題し、納官・増田校区にある様々な遺跡や文化財、戦跡をバスで巡りました。

当日は、小雨まじりの天候でしたが、子供たちは、初めて見るものに興味津々の様子で、担当者の説明に聞き入っていました。

今回の活動を通して、地域の歴史や文化への理解を深め、学びの楽しさを実感できたようです。今の生活との違いや平和の大切さを考える貴重な時間となりました。



戸畑の煮炊所跡（増田校区）

「非常時の簡単な調理法」 研修会

十月十六日、中種子町保健センターにおいて、「非常時の簡単な調理法」の研修会を開催しました。町内の各女性団体の代表で組織する女性団体連絡会のメンバーを対象にしたもので、近年、自然災害が増加する中、いざという時に役立つ知識を身に付けたいという声に応え、企画したものです。日本栄養士会災害支援チームのスタッフで管理栄養士の渡邊里美氏を講師に招き、ポリ袋調理や缶詰を使った簡単レシピの紹介・実演を行いました。参加者たちは、「災害時の不安を軽減し、自分の生活を守る一助となるスキルを学ぶことができた。自分でも作ってみよう」と意気込んでいました。



非常時の簡単な調理法の実演

中種子町高齢者学級 「どんぐり」

中種子町には、高齢者の教養を高め、学習活動を通してお互いの親睦と融和を図ることを目的とした高齢者学級「どんぐり」があります。

四月に開講し、講話を聞いたり、音読をしたり、体操をしたり、一年を通して様々な学習プログラムが実施されます。バスに乗って遠足に出かけることもあり、屋内外問わず充実した学習内容となっています。

十月の活動では、「へびのきめこみパッチワーク」作りに挑戦しました。パーツを切ったり、貼ったり、きめこんだり多くの工程がありました。皆さん集中して製作に取り組んでいました。指先を使つての細かい作業に少し苦戦しましたが、参加者全員が無事に完成を迎えることができました。

作品は町民文化祭で展示を行い、多くの来場者の関心を集める見事な出来栄となりました。



「へびのきめこみパッチワーク」作り

中種子町の指定文化財

中種子町には、多くの指定文化財があります。その中で、令和六年三月十一日に新たに町指定文化財に指定された「清浄寺『お盆行事（精霊迎えと精霊送り）』」を紹介いたします。

増田向井町清浄寺で行われているお盆行事「精霊迎えと精霊送り」は、清浄寺建立以来、檀家をあげて寺院保護に尽力してきた中で、五百年以上も続けられてきた伝統行事です。

お盆になると、御先祖の精霊様を迎え入れるだけでなく、無縁仏も精霊棚（茶屋）を設けてお迎えしてねんごろに供養する精霊迎えを行い、お盆が終わると、船の代わりになると言われるユリ根や魯の代わりになると言われるマキ（粽）等と一緒に近くの川から海へ流す精霊送りを行っています。

近年、少子高齢化による後継者不足などにより、地域に残る伝統行事が簡素化・簡略化されていく中で、このお盆行事は檀家をあげて守り伝えられています。

また、町指定文化財としては、初めて年中行事等に関する習俗慣習に類するものが指定されています。



精霊送り法要

南種子町

心ふれあうまちづくり
宇宙のまちなみたね

南種子町・愛知県飛島村

友好都市青少年交流事業

七月二十四日（水）から二十六日（金）の期間で、友好都市宣言を交わしている愛知県飛島村を本町青少年交流団十三人（小学生六人、中学生二人、引率者五人）が訪問しました。交流団は、三菱重工業飛島工場でのロケット製造工程の見学や飛島村児童交流団との交流などを通して、友好都市の仲間との出会いを楽しみ、共に、飛島村を訪問したからこそ得られる貴重な経験をする事ができました。

さらに、十二月二十四日（火）から二十六日（木）の期間には、飛島村児童交流団が本町を訪れ、本町交流団と一緒に種子島宇宙センターなどの見学や広田遺跡での創作活動を行い、友好都市の仲間との絆をより一層深めました。

今後も飛島村と教育文化をはじめとした、多面的な交流を行っていきます。



名古屋城見学・交流会の様子

町PTA活動研究委嘱公開

「子育ての場」としての
種子島の魅力と課題を考える

十一月十六日（土）に大川小学校において、南種子町PTA活動研究委嘱公開が開催されました。

オープニングアトラクションでは、大川小学校の全児童、保護者、職員が披露され、華やかに開会しました。

大川小PTAの活動発表では、約四十年続く磯研修など、地域や学校と一体となった活動の成果が報告され、参加者の関心も高く、多くの質問がありました。

講演では、「震災が変えた今までの価値観」と題して、西海地区在住で宮城県出身の貝山氏に、東日本大震災時の体験についてお話しいただきました。

パネルディスカッションでは、様々な職種や立場の六人の方が登壇し、「子育ての場」としての種子島の魅力と課題について、活発な意見交換がなされました。



アトラクション・パネルディスカッションの様子

日本宇宙少年団南種子町宇宙科学分団
「創立四十周年
記念式典・祝賀会」

十二月七日（土）に、日本宇宙少年団南種子町宇宙科学分団「創立四十周年記念式典・祝賀会」が開催されました。式典は、小西嘉秋分団長と団員代表の永松由衣さんのあいさつから始まり、功労者の方々への表彰や団員による四十年間の歩みの活動報告が行われました。

その後、日本宇宙少年団理事長で、本町トンミー大使でもある宇宙飛行士の山崎直子氏による記念講演会が行われ、「宇宙、人、夢をつなぐ想像力を子どもたちに」と題して、宇宙飛行士としての体験談を交え、とても貴重なお話をいただきました。

南種子町宇宙科学分団は、昭和五十九年八月に世界で最初に結成されて以降、延べ二千六百人の子供たちに、キャンプや科学実験、天体観測などの各種活動を通して、宇宙を科学する心を育んできました。「国際感覚を養い、宇宙規模で考え、生き抜く創造の力を子どもたちに」をテーマに、これからも活動を行っていきます。



活動報告・記念講演会の様子

広田遺跡ミュージアム博物館講座
「種子島の弥生時代稲作文化」

十二月二十一日（土）に、博物館講座「ここまで分かる！考古学の最先端研究」野木田遺跡で何がわかるのか」を開催しました。

野木田遺跡（南種子町荳永）は、広田遺跡とほぼ同時期の弥生から古墳時代にかけての水田遺構が発見された遺跡で、現在発掘調査が行われています。

講演では、国立歴史民俗博物館名誉教授の藤尾慎一郎氏より、古人骨DNAや炭素十四年代などの科学分析と、弥生時代の最先端研究内容について解説をいただきました。

また、上野原縄文の森の元園長である堂込秀人氏との対談では、「弥生時代の種子島について」と題して、野木田遺跡で最先端研究を行うことで見えてくる種子島の弥生時代の稲作文化について、分かりやすく解説してくださいました。



講演・対談の様子

屋久島町

生き生き キラキラ 元気あふれる 屋久島町

子ども会交流
～菊陽町交流・口永良部交流～

屋久島町では毎年夏から秋にかけて、子ども会が各種交流事業を実施しています。

八月十八日、熊本県菊陽町との交流会を実施しました。菊陽町二十人と屋久島町十三人がウォークラリーや海水浴など、屋久島の大自然の中で楽しく交流することができました。昨年度、菊陽町で交流したときの参加者が両町とも含まれており、交流が単年度で終わることなく次の年にもつながること、より一層深い絆ができました。



【菊陽町・屋久島町交流】

九月二十八日、口永良部島子ども会と平内子ども会が交流会を実施しました。平内子ども会の幼児から大人までの三十一人が口永良部島を訪れ、対面式の後は金岳小学校でグラウンドゴルフや球技大会で交流を深め、夕食後はみんなで花火をして楽しみました。翌日は、口永良部島の海岸に



【口永良部交流】

行き、みんなでゴミ拾いをしました。両交流会での経験を、今後の子ども会活動等に生かしてほしいです。

青少年健全育成啓発ポスター
～あいさつ・インターネットの
安全な使い方～

屋久島町では、インターネット（スマートフォンやゲーム機器等）を活用したコミュニケーションツールが及ぼす青少年を取り巻く問題への適切な指導、ポスター・標語の制作を通じた意識化に取り組んでいます。

今年度も授業や夏休みの課題等で多くの児童生徒がポスター・標語の制作に取り組みました。取組を通して、積極的にあいさつをする姿勢やインターネットと上手に付き合おうとする意識が高まることを期待しています。



【啓発用ポスター】

生涯学習県民大学講座
～町人権教育研修会～

七月二十七日、町人権教育研修会を兼ねた生涯学習県民大学講座を屋久島離島開発総合センターで実施しました。

今回は鹿児島純心女子短期大学の島津教授による「ほっとインクルーシブ」つながるよさを感じながら、志学館大学の胸元教授の「インターネット長時間使用と健康問題」の二つの講座がありました。各講座ともたくさんの町民のみなさんが参加し、前半の講座は、歌ありゲームありの九十分で、多くの受講者が「つながる」よさを感じることができたようです。後半は、本町が推進するインターネット機器の適切な使い方に関する内容で、受講者の意識も一層高まったのではないかと思います。



【ほっとインクルーシブ講座】

郷土の歴史を学ぼう
～屋久・横峯遺跡から～

十月二十五日、小瀬田小学校の四年生の児童が学校遠足で縄文時代の暮らしを体験しました。講師は、横峯遺跡を盛り立てようと活動している春牧横峯縄文クラブのメンバー六人が務め、遺跡の説明や火起こし体験、ドングリを使った縄文料理体験等を実施しました。当日は雨のため、現地での体験学習ができず、小学校体育館での体験となりました。火起こし体験をした児童らは「自分でフーフィーして、火をつけることができてよかった」「息を吹いていたら、急に火がついてびっくりしたけど楽しかった」と話していました。

横峯遺跡は、屋久島町春牧集落に

位置する縄文時代後期の集落遺跡です。平成十一～十四年に発掘調査が行われ、縄文土器や石器が出土したほか、縄文人の住居であったとされる竪穴式住居跡が百基以上発見されました。



【歴史体験】

屋久島ジュニア検定
～ふるさとを語れる青少年～

世界自然遺産のまち屋久島を知り、誇りをもって屋久島を語れる青少年の育成を目指して、毎年十二月に屋久島ジュニア検定を実施しています。十四日に実施した第十六回検定では、町内全小・中学校の児童生徒や屋久島高校の生徒、保護者も参加しました。

問題は、屋久島の「自然・環境」「文化・伝統・風俗」「歴史・地理」「町政・産業」に関する内容から五十問を出題しました。三回合格でジュニア博士、四回合格でジュニア大使に認定され、今回九人の博士が誕生しました。実際に問題の一つを紹介します。

《自然・環境》領域から出題

【問題】

屋久島は、とても雨の多い島です。その理由として特に大きなものは次のどれでしょうか。

- ① 温かい海に囲まれ、高い山があるから。
- ② 南国で気温が高いから。
- ③ 温暖前線や台風の通り道だから。

【①：堀江】